

茶のカルテック栽培

(成木園・目標生葉収量 800kg の場合・10アール当り)

時期	方法	資材
9月 秋肥 (元肥)	微生物と有機物、 N・Caを同時に 散布して、スキ込 み、深耕して地力 作りを行います ※この後、10月以 降に、根にデンプン が蓄積され(1~2 月に最大)、また10 ~12月に冬芽が形 成されます。	ラクトバチルス600g …排水・通気と保水性がよく、肥沃な土を作ります。 耕土深くまで均質になり、盤層形成を防ぎます 敷草、ワラ、堆肥 (1トン以上) 硫安 80kg ※敷草・堆肥等が不足の場合は 複合肥料でNK成分：各16kg程度。 カルテックCa粒状 (または 畑のカルシウム) 40kg ※茶樹の好適土壌pHは <u>5.0~5.5</u> で、好酸性作物と言われています。 しかし実際には、pH4.5以下で生長が悪くなった茶園がよくあります。 逆にpH5.5~6.0でも(根が強く、根圏土壌のpHが5.5以下になれば)生長の良い茶園も多く見られます。ですから茶園でも、極端には酸性にせず、適度なpHになるように調節することが大事です。 ※茶園の中で 水が溜って流れる部分だけが 酸の溶出で高pHになり、枝先が細く枯れる事がよくあります。その部分は Ca粒状 を3倍量施用。 ※このカルシウムは 土壌の団粒化も促進します。 ※茶にも(当然) カルシウム栄養(とイオウ)が必要です。特に秋肥のカルシウムは 根へのデンプン蓄積を強く進め、冬芽を充実させ、一番茶の生長を良くします。
2月下旬 春肥	全面に散布し、ウ ネ間に多くする (特に硫安) ※3月下旬から伸び る春芽の栄養補給	濃縮酵素液 5リットル 灌注 (300倍程度) … 根の強化・萌芽の促進 硫安 60kg (N成分：12kg) ※同時に散布します。本来の理想的方法は、春根が動き出す前濃縮酵素液、動き出して10日頃に硫安(出来れば10日間隔2回に分施)と分けて施します。 ※芽出し肥には、 濃縮酵素液 がよく効きます
5月 夏肥①	一番茶摘採直後、 ※5~6月に伸びる 腋芽(二番茶)のた めの栄養補給	① 濃縮酵素液 5リットル 灌注 (300倍程度)または葉面散布 ※摘採直後(摘採中)に使用して、傷んだ根を回復させ、新根を動かします。 ② 硫安 40kg (N成分：8kg) ※①の後4日目に(すでに根が動いている)、施用
7月 夏肥②	二番茶摘採直後、 ※7~8月の三番茶 のための栄養補給	① 濃縮酵素液 5リットル 灌注 (300倍程度)または葉面散布 ※摘採直後(その日)に使用して、傷んだ根を回復させ、新根を動かします。 ② 硫安 40kg (N成分：8kg) ※①の後4日目に(すでに根が動いている)、施用
8~9月 秋	三番茶摘採後、 ※秋の養分蓄積の ための調節	① 濃縮酵素液 2リットル 灌注 (300倍程度)または葉面散布 ※摘採直後に使用して、傷んだ根を急いで回復させ、秋の蓄積に備えます。 ② カルテックCa液状 500倍 葉面散布 または2リットル灌注 ※秋冬の光合成を盛んにし、養分蓄積をうながし、翌年の春芽を強くします。

【特に弱い樹への対策】

芽の生長や出開きが悪い、落葉する、枝先の伸びが悪いなどの場合は、**濃縮酵素液**の灌注(300倍液)を行います。特に土壌pH(根の傍、深層)が高い、根のpH(根酸)が5.5より高い(理想値4.5以下)場合はこの方法で回復します。

【造成園】

苗木(さし木)・植付けの時には、木の周囲に **濃縮酵素液**300~500倍でタップリ灌水します。幼木園では 施肥量を、1年目1/6とし、2年目から徐々に増やします。カルシウムも同様に。幼木は特に根が弱いので、散水時の**濃縮酵素液**を使用します。